

# 苫小牧市長 岩倉博文 様

## 苫小牧腎友会要望書

苫小牧市におかれましては、日頃より苫小牧腎友会の活動にご理解とご協力を頂き、感謝申し上げます。

市長さまをはじめとする関係者の皆さまに「ふくし大作戦」を2年続けて実施して頂いていることにも、心より感謝申し上げます。

我々人口透析患者が、もっと人間らしく過ごすために必要な環境を整えるために、今年は6つの項目について請願します。市長さまと関係者、市民の皆さまに更なるご理解を得るための努力をして行きたいと思っておりますので、ご検討のほど宜しくお願い致します。

## 要望項目

① 苫小牧市では、重度障害者タクシー料金助成制度、福祉ハイヤー助成制度、市内路線バス無料乗車証交付制度があります。これに加え、3年前から自家用車による通院の補助として、年額 9,000 円の支給を受けられるという選択肢が増えました。透析患者の自家用車に対する通院補助は、通院の実態に即したものであり、非常にありがたい思っております。しかしながら、通院に要する実際のカソリン代を考えると、現状の補助では不足していると言わざるを得ません。なぜなら、苫小牧は東西が約 40km と横長の地形であり、自宅から病院までの片道の距離を 7km とし、月の通院回数が 13 回なので、年間で通院の総距離が 2184km となります。自家用車の燃費が 15km/L の場合、レギュラーガソリンを 120 円/L と仮定すると、計 17,472 円となり、現在の補助額 9,000 円とは、約 8,000 円の差があります。このような状況を踏まえ、我々としては、年額 12,000 円へ増額することを望みます。当然、市の財政状況によっても実現の可否が変わってくるものと存じます。このことについて検討頂けますようお願いいたします。

② 苫小牧腎友会では、昨年より Facebook のページを立ち上げ、実施したイベントについての情報を発信しております。当腎友会の活動をます

ます活発にするために、より多くの透析患者の皆さんや健常者の皆さんに我々腎友会の活動を知って頂くことが重要です。昨年の請願でもお願いしていたことなのですが、苫小牧市のホームページの中に苫小牧腎友会の Facebook ページを紹介するコーナーを設けて頂けますよう、ご検討のほどお願い致します。

③ 臓器移植は透析患者が透析を逃れる唯一の手段です。北海道では547人の腎臓の移植希望者がいながら、今年に入ってこれまでの移植の実績は6件と中々進んでいないのが現状です。できるだけ多くの方に臓器移植の現状を知って頂くには、人の多い場所で情報を提供することが重要です。現在、「臓器移植推進と病気を理解し、健康の大切さを知って頂くビデオコーナーの設置」が保健センターに設けられております。これに加え、市役所庁舎は市民の出入りが多い場所ですので、テレビが設置されている箇所で定期的に臓器移植を推進する動画資料を再生し、移植の現状についての情報を提供することについてご検討頂きたく存じます。

④ 苫小牧腎友会では、会の催事の告知などで配布するリーフレットを市の活動センターに設置されたリソグラフで印刷しております。一昨年

に機器が更新されたものの、このリログラフがやや古い機種であるため、写真が載る資料については印刷が不明瞭で、使いづらいと言わざるを得ません。

活字だけでなく写真も鮮明に印刷できる新しいリログラフの機種へと更新して欲しいという願いは、我々腎友会だけでなく、難病連苦小牧支部でも同様です。また、それ以外でも、このリログラフを利用している多く団体の方にとっても有益であることは明らかです。このような経緯で、市活動センターのリログラフの更新についてご検討頂きたく存じます。

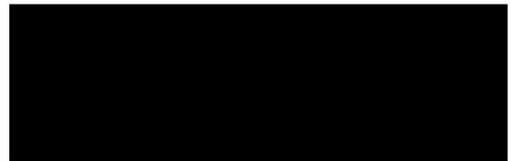
⑤ 災害時の要支援者の確認と名簿作成の活動をして頂いていることについて感謝申し上げます。要支援者を把握することは、災害対策の第一歩として、たいへん意義があることで、今後もこの活動を継続して頂けるよう、お願い申し上げます。このことに関して、苦小牧腎友会がお役に立つことがあればどのようなことでも協力は惜しまないつもりですので、宜しくお願い致します。さらに、名簿等が整った次の段階として、実際に災害が起きた際の要支援者への駆けつけ行動は、町内会の単位で行うのが現実的と考えられますので、居住地区や集合住宅の部屋単位での要援護者支援、避難誘導の役割分担について、具体的な訓練を継続して頂けますようお願い申し上げます。

また、私達の透析には透析設備とスタッフ、透析機械を動かす電力を得る予備発電機に加え、大量の水が必要です。透析を行うには、これらの確保が必須です。さらに、透析施設が使用不能の状態を想定した対策として、苫小牧市と北海道透析医会と市域内だけでなく、市域を超えて施設側との事前協議や患者の受け入れ医療機関との打ち合わせも必要と思われまます。このことについて検討頂けますようお願い致します。

⑥ 現在まで治療法がなかった難病を自分の細胞を使って必要な臓器を再生する道を開いたIPS細胞に代表される再生医療は、目の網膜、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、パーキンソン、アルツハイマー、脳梗塞、脊髄損傷などの難病の治療への扉を開こうとしています。5年前から全腎協、道腎協、苫小牧腎友会においてIPS細胞による再生医療への協力と推進を活動計画に入れ、希望を持って活動しております。全国に先駆け、全道の患者、家族、施設、協力団体の皆さんで、IPS細胞による再生医療への支援として、募金と研究者への励ましの手紙など患者それぞれの思いをお届けする活動を行っております。研究の進捗をただ傍観しているのではなく、少しでも研究の後押しをしたいとの思いからです。そして、これらの医療の進歩が私達患者に生きる勇気を与えてくれ

ますし、また、市民の皆さまにも関心を持ってもらうことで、病気を抱える患者の理解にもつながればと願っております。また、苫小牧に住む患者、市民の皆さまがお互いを理解しあい、共生、共存の出来る街、福祉の街づくりに役立つことを心から願っております。市民の皆さまが再生医療に関する情報に接する場を設けて頂けるような配慮をお願い致します。

平成29年11月15日



苫小牧腎友会 会長 工藤彰洋